明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令 和 6 年 11 月 21 日
みどり環境局環境活動事業課

こどもたちの環境教育・学習を更に推進！

～横浜市と株式会社アドバコムが「環境教育・学習の推進に関する連携協定」を締結しました～

横浜市は、持続可能な社会の実現に向けて、「自ら考え、具体的な行動を実践する人づくり」を目指し、環境教育・学習に関する施策を展開しています。

横浜市と環境情報紙「エコチル」※を発行する㈱アドバコムは、平成 31 年より、横浜市の環境情報を「エコチル」で発信するなど、共に協力しながら、こどもたちが環境に関心をもつ機会の創出に努めてきました。

このたび、GREEN×EXPO 2027 も見据え、取組を充実させていくため、「環境教育・学習の推進に関する連携協定」を包括的に締結しました。

こどもたちの環境教育・学習を更に推進し、環境行動を実践する人づくりに積極的に取り組んでいきます。

協定締結式の様子

1 経緯

㈱アドバコムが発行する「エコチル横浜版」は、令和元年度から横浜市内の市立小学校の全児童を対象に配布されており、こどもたちの環境に関する理解の促進や、家庭のコミュニケーションツールとして使われてきました。このたび、これまで積み重ねてきた実績を背景に、GREEN×EXPO 2027 も見据え、横浜市における環境教育・学習の更なる推進の実現のため、連携協定を締結しました。

2 主な連携事項

(1)㈱アドバコムが発行するこども環境情報紙「エコチル」を活用した環境情報の発信に関すること

- ▸GREEN×EXPO 2027 をはじめ、生物多様性、脱炭素、みどりアップ、公園、資源循環に関する情報等、より充実した内容を幅広く発信
- ▸読者アンケート機能によるこどもたちや保護者からの質問や意見を収集及び分析し、取組にフィードバック

(2)本市又は㈱アドバコムが開催する環境関連イベントに関すること

3 協定締結日

令和6年 11 月 20 日

※エコチルについて

㈱アドバコムが発行する環境教育情報紙。「エコロジーチルドレン」の造語の略で、こどもたちに、もっと環境に関心をもってもらえる機会をつくることを目的に平成 18 年に創刊。エコチル横浜版は、平成 31 年4月に創刊し、横浜市内の市立小学校に無料配布されている。(約 16.5 万部) https://www.ecochil.net/

エコチル横浜版　令和６年 11 月号

イラストをふんだんに使ったこどもたちが親しみやすい紙面が特徴

お問合せ先
みどり環境局環境活動事業課長　　森山　晴美　　Tel 045-671- 3830

GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

別紙

さまざまな役割があるよ！ 横浜の田んぼについて知ろう！

田んぼは都市を守ってくれる！

令和5年度の「作物統計調査」によると、横浜市には119haの田んぼがあるよ。とはいえ、雑もふくめた市内の耕地面積全体で見ると、昭和40年に31.2%だった割合が6.0%にまで減少しているんだ。このまま田んぼが減ってしまうと、困ったことになってしまうよ。

というのも、田んぼには防災的な機能があるから、そもそも田んぼには水を保つ働きがあるため、豪雨時に雨水を一時的に貯めたり、下流域を水害から守ったりしてくれるだけでなく、地下水を急激に増やさないよう、土砂くずれや土の流出を防ぐ働きもあるよ。また、水田に緑や水があることで、気温上昇を緩和することもできるんだ。

生き物にとっても田んぼは大切

田んぼは、防災機能の他、トンボ、カエル、メダカ、ドジョウなど、さまざまな生き物の"家"としての役割もあるよ。その中では、カエルがイネの害虫を食べ、そのカエルをねらってタカやフクロウがやって来たり、小さな虫を食べているトンボなどの昆虫は鳥のえさになったりなどしているよ。畑ほど肥料を必要としないのに、田んぼで毎年連作できるのは、森からの栄養をふくんだ水と、いろいろな生物の排出物や死がいが土にかえっているおかげなんだね。

また、田んぼには、身近な生き物とふれ合い、地域の人から農作業を教わる貴重な場としての役割もあるよ。もし、横浜の子どもたち全員が、田んぼのない所で育っていたら、いつも食べているお米がどのように育っているのか、田んぼや農地が身近にないと見えにくくなってしまうよね。食べ物への感謝の意識も薄いにくくなるかもしれないよ。私たちがこれからも生活していくには、暮らしの側に田んぼが必要なんだ。そんな田んぼを、これからも守っていこうね！

今年も新米の季節がやって来たよ。田んぼには、お米を作るだけでなく、私たちの暮らしにとって大切な役割がたくさんあるんだよ。今日は、そんな田んぼについて、くわしくまなんでいくよ！

協力：横浜市みどり推進局

お米ができるまで

- 3月 田おこし
- 4月 苗作り
- 5月～6月 しろかき・田植え
- 6月～9月 あぜの手入れ・水の管理
- 9月～10月 収穫
- 脱穀・精米

参考資料：「はまふじどりくらぶ」http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri/kankyo/nori/hagujidorikurabu/kome/index.html

横浜市産のお米を食べよう!!

みんなは、横浜市で作られたお米を食べたことはあるかな？ 横浜市の田んぼとお米について、くわしく紹介していくよ!!

横浜市の水田状況

田んぼの面積	収穫量
119ha	591t

出典：「横浜市水産業計画」「作物統計調査」

はるみ

名前の由来：育成地である神奈川県湘南地域の「湘南の海」に由来する。

お米の特徴：コシヒカリと比べてツヤがあり、あまみ、ねばりが強い。冷めてもおいしい。

キヌヒカリ

名前の由来：絹のようなツヤが特徴であることから命名。

お米の特徴：ソフトなねばりで少しさっぱり目の印象。

てんこもり

名前の由来：富山のブランド米「てんたかく」とのシリーズで名付けられる。食欲をそそる名前。

お米の特徴：甘味が強く、つやがあり、大粒でしっかりとした食感がある。

さとじまん

名前の由来：わが家を自慢したいということから、「さとじまん」と命名。

お米の特徴：コシヒカリよりもつぶが大きく、もちもちとした食感。おにぎりやお弁当に最適。

横浜の農景観（寺家ふるさと村）

森と森との間に広がる水田を「谷戸田」と呼ぶよ。昔の谷戸のような風景が横浜市には残っているんだ。

横浜市の農業にふれることのできる場所

農業を守ることや地域の活性化を目的に、農景観を守る取り組みとして「横浜ふるさと村」2カ所、「恵みの里」5カ所が市内に存在するよ。

横浜市の農業にふれてみよう!!

横浜市では、農にふれ、体験できる場として「横浜ふるさと村（寺家・舞岡）」「恵みの里（田奈、都岡、新治、恵シーサイド、北八朔）」を指定しているよ。田植えや稲かりの他、さまざまな農体験イベントを行っているよ!!

エコチル横浜版　11 月号　巻頭特集記事